

令和 7・8 年度 第 1 回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議
議事要旨

日時 令和 7 年 8 月 22 日（金）午後 3 時から午後 5 時まで

場所 消費者生活センター 大集会室

出席者 名和田委員（会長）、倉持委員（副会長）、海老澤委員、笈川委員、
大島委員、金田委員、近田委員、嶋村委員、鈴木委員、高橋委員、
津久井委員、中野委員、中村委員

※井上委員、近藤委員欠席（役職・50 音順）

1 開会

【事務局】

第 1 回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議を開催する。お集まりいただき感謝申し上げます。会長が選出されるまでの間、青少年・生涯学習担当課長の竹田が進行役を務めさせていただく。

会議録の作成のため議事の録音及び写真撮影をさせていただくため、御了承いただきたい。

推進会議運営要綱第 7 条に、「推進会議は、原則として公開とする。ただし、1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、2 特定の者に不当な利益または不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本日の会議は公開とする。

会議の内容については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区のホームページにおいて公開する。

2 委員の委嘱

委員の委嘱については、委嘱状を机上配付したため、ご確認いただきたい。

なお、区職員については、委嘱状を省略している。

本日は、スポーツ協会事務局長の井上委員、社会福祉協議会事務局長の近藤委員は所用のため欠席されている。

事務局を紹介させていただく。地域未来創造部長、地域力推進課長、関係所属として区民協働・多文化共生担当課長、大森西特別出張所長、スポーツ推進課長、教育総務課長、大田図書館長が出席させていただく。

3 地域未来創造部長挨拶

【事務局】

地域未来創造部長からご挨拶を申し上げます。人づくりを軸とした地域づくりという資料をご参照いただきたい。

【地域未来創造部長】

お集まりいただき感謝申し上げます。

6年ほど前、生涯学習を所管する担当課長を務めており、生涯学習分野には、強い思いを持っている。

また、生涯学習は、これからの社会に不可欠なものと思っており、特に人づくりを軸とした地域づくりというのが、課せられたミッションであるため、このことについてお話しし、皆様をお願いさせていただく。

この資料にあるのは、要は地域づくりと人づくりということ。区は、18の地域に特別出張所を配置している。資料右に地域力地区委員会があるが、これらの他にも様々な会議体がある。そこで地域から課題を持ち寄り解決するための会議体はいくつかある。その持ち寄られた課題などを、資料左下にあるように特別出張所の職員が相談を受け、関係機関に繋ぐ役割を担っている。

併せて、区には特別出張所と地域包括支援センターが並走、連携し、福祉に関する個別支援は、地域包括支援センターが関係機関に繋ぎ、地域課題を解決していく流れを構築している。

加えて、資料右下にあるとおり、文化・芸術やスポーツ、生涯学習などを通じて、人と人との交流やつながりを生む機会を創出する。そして、持ち寄られた課題に即した学びを提供することで、地域の主体的かつ自主的な活動を支える、いわゆるエコシステムを構築したいと考えており、今は道半ばにある。

現代社会は、少子化、国際化、自然災害、国際紛争など社会変動の要素があ

り、こうした時代に適応するためには、常に学びを深める必要があると考えている。

さきの大戦から今年で 80 年になる。焼け野原から Japan as No. 1 の時代も経験し、世界に冠たる地位と、努力を果たしてきた我が国である。

そのような中で現在を見ると、社会的あるいは政治的に、混迷をしているような状況の中で学びとその実践が、この閉塞を打開する道の一つであると思っている。これからの日本、そして大田区を定めていくもの、その一つの中軸が生涯学習の意味であり、その重要性はますます増していると考えている。

皆様に委員をお願いする 2 か年では、家族形態あるいはライフスタイルがまた多様化していくだろう。そのような状況で、地域課題に適用して、どのような学びを下敷きにこれを展開するか、ぜひ思いを馳せていただき、幅広い御視点からサジェスション、御意見を賜ればありがたい。そのように期待を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

4 会長、副会長の選出

【事務局】

続きまして、推進会議運営要綱第 5 条に基づき、会長及び副会長の選任についてお諮りする。要綱では、会長及び副会長は委員が互選すると規定している。

まず、会長の選出を行う。どなたか会長のご推薦はあるか。

(委員 挙手)

【事務局】

どうぞ。

【委員】

令和 5、6 年度に推進会議の会長を務められた、名和田委員を推薦させていただきます。

【事務局】

名和田委員を御推薦いただいた。委員の皆様、いかがか。

(異議なし)

【事務局】

それでは、名和田委員に会長をお願いする。ご挨拶をお願いしたい。

【会 長】

推薦いただいたので、お引き受けしたいと存じる。

私はコミュニティ政策を研究している。先ほど地域未来創造部長が説明されたこの資料右上に書いてある地域力推進地区委員会という仕組みが大田区にあり、このような仕組みを都市内分権というが、この都市内分権が私の研究のコアにある部分である。

これと関連して日本では、生涯学習を切り口にしたり、地域福祉を切り口にしたり、あるいはもっと包括的なコミュニティ組織をこの町会・自治会を中心に新たにつくるという動きも多くある。そういったことを研究して、国際的にはドイツと比較して研究をしている。

生涯学習は素人だが、この委員会では、専門家がおられ、地域で実践されている方々もいらっしゃるため、そういった方々のお力を借りて今期もまた務めて参りたい。

【事務局】

続いて副会長を選出する。どなたか副会長のご推薦はあるか。

(会長 挙手)

【事務局】

どうぞ。

【会 長】

前期も副会長を務められた倉持委員を推薦する。いかがか。

(異議なし)

【事務局】

それでは、倉持委員に副会長をお願いする。ご挨拶をお願いしたい。

【副会長】

私の専門は社会教育や生涯学習だが、社会教育や生涯学習は、地域の特性が大きく反映するものだと思っている。大田区ならではの地域の資源や人々の関心、委員の皆さんのご意見、ご経験を出していただき、これからの大田区の生涯学習の在り方ということを検討することがとても大事なことだと思っている。ぜひ皆様のご協力をいただき、充実した会議にしていきたい。

【事務局】

推進会議は、本年度中に本日を含めて3回実施を予定している。今年度は時期プランにおいて重視する点や課題についての大枠を皆様にご審議いただきたい。

本日は、主に次期プランの方向性や区民等へのアンケート調査の設問内容についてご意見をいただく。第2回は、区における生涯学習の課題をご審議いただき、第3回は、アンケート結果の報告書について最終確認をいただく予定としている。

ここからは、名和田会長に議事進行をお願いする。

5 議題

【会 長】

議題（1）について、まず事務局から説明をいただきたい。

【事務局】

令和6年度取組状況報告について、資料1に基づき説明させていただく。「おおた生涯学習推進プラン」では、効果を把握するための目安として、各基本目標に対する注目指標を設定し、その数値の変化を確認すること、また指標のみでは評価が難しい取組の成果については、定性評価を行うこととしている。

これらに対して本推進会議においてご意見をいただくことで、政策に対する進捗の評価を行うこととしている。

本日は、令和6年度重点的に取り組んだ事業の一部について、報告させていただき、それ以外の冊子に記載している内容については、事前送付をもって報告に代えさせていただく。資料23ページの重点的取組「地域の学びを支える施設や事業の拡充」をご覧ください。区民に身近な施設を活用した生涯学習の試行的な取組として、令和5年度から社会教育指導員が定期的に文化センターを訪問し、講座や相談会を実施している。その結果、これまで文化センターの存在を知らなかった区民が来館され、文化センターやサークル活動の認知に繋がっている。それにより、サークルに加入した事例もある。これは生涯学習の広がりがあった一部ではないかと思っている。実際に文化センターを訪問している社会教育指導員から取組状況について報告させていただく。

【社会教育指導員】

令和6年度に地域学習コーディネートとして、大森地域を担当した。他に、調布地域担当、蒲田地域担当の3名で地域学習コーディネートを担当している。

文化センターを地域の学びの拠点として広く知っていただけるように、生涯学習相談会など文化センター各所で開催した。

生涯学習ボランティア制度に登録しているインストラクターの方を紹介することを目的に、講師を担ってもらう講座や、文化センターを利用している社会教育関係団体の皆さんが、日頃の学習の成果を生かして行う初心者向けの学びのきっかけになるような機会を開いてきた。

ヨーガ禅入門の講座は雪谷文化センターで、多様な世代の参加を促すために夜間に開催した。家族で楽しむ卓球教室は、糀谷文化センターで活動している社会教育関係団体の方からの相談を受け、親子で参加できる卓球教室と一緒に計画し、実施した。

水彩画のワークショップは、小学生から70代の方まで一緒にアートを楽しむ場をつくることができた。

対象者や開催時間帯などを工夫することで、今まで文化センターを利用したことがない人たちに参加してもらうことができた。

生涯学習相談会では、何かしたいが何をしたらよいのかとか、サークルをやっている方からもっと会員を増やしたいとか、様々なお話を聞く。

相談会を文化センターで開催する日には、体験会も併せて開催し、他の人と一緒に楽しく学び合うことを体験できる場を企画した。無料体験の場というのは、とても敷居が低く、初めての人が他にもいる安心感もあり、好評をいただいている。

体験会をきっかけに実際の雰囲気や活動に触れることで、入会する方もいる。

手話を学習中の生涯学習相談員が中心となり企画した体験会では、学習ニーズを拾うことができ、相談員にとっても収穫があったようだ。また、この企画により、近隣図書館からデフリンピック関連で協力の依頼が相談員にあった。生涯学習人材が地域で実践しながら、ステップアップされていることを知っていただきたい。

すでに地域で学習や活動を継続されている方が多くおり、活動を地域に開いて、学びをつなぐことや広げることの支援もしてきた。

「わたしたちの六郷」を企画した社会教育関係団体は、生涯学習の講座をきっかけにできたグループで、これまで六郷地区を中心に学習会やまち歩きガイドなどの活動をされてきた。文化センターで展示を行ったことで、文化センターを利用している若い方も地域の歴史などに触れる機会をつくることができた。当日、生涯学習相談会と併せて行ったが、せっかく開いてもあまり人が集まってこない、若い世代の方にどうやって知ってもらえるのかという思いを持つようになった。生涯学習相談員、地域のサークルの方、生涯学習サポーターが話し合い、アイデアを出し合って、若い人に来てもらえる企画を検討する場を設け、来週実際に実施する予定。

サポーター養成講座を経て、学ぶ・つなげる人になろうとの思いを持った人たちに、地域との接点を持ってもらえるよう、地域学習コーディネーターがいないでいるという事例を紹介させていただいた。

今年度の取組になるが、スマイル大森で生涯学習の相談会・体験会を実施した。こちらもおおた区民大学（現深める・つながる講座）の受講をきっかけに立ち上がったグループの会員の皆さんが、地域を調べる足がかりやきっかけ、また、ひとりより仲間と一緒に学ぶことの面白さについて伝えていただく日になった。

ここまで地域学習コーディネーターが地域に出かけて学びのきっかけになること、学びを広げていくこと、拠点となる文化センターを中心に行ってきたことをお話しさせていただいた。

地域には多様な主体がある。地域の中での関係づくりや情報収集に努めて、学びにつながる地域づくりに寄与できたらと思っている。多様な主体との関係づくりの成果として、大森地域の事例を3つ紹介する。

一つ目に、美原文化センター利用団体連絡協議会の方から、文化センターまつりの発表ステージに出てくれる人を探しているという相談を受け、生涯学習インストラクターの方をつなぎ、文化センターまつりでの演奏が実現した。

二つ目は、大森東図書館だが、図書館の展示の棚に美原文化センターで活動するサークルに関連する図書を揃えたり、広報紙にサークル紹介展示について掲載したりしてもらっている。

三つ目として、地域福祉コーディネーターが主催するイベント時に相談会を

出張開催することができた。これは、地域包括支援センターの職員が、高齢世代の社会参加や多世代交流という、私たちと共通したテーマを持っているため、双方の取組を知る機会を持つようにしてきた成果と言える。同じイベントの中で、体験コーナーをつくるために、地域の人材を紹介してほしいという相談を受け、文化センターの利用団体やインストラクターを紹介し、実際に協力を得ることができた。

地域学習コーディネートは、個人の学びや経験を地域に開いていく、つないでいくことを促進している。そのためには、文化センター利用団体連絡協議会の皆様や周辺施設の職員、自治会・町会の皆様と日常的な関係づくりが重要だと感じている。ただ、地域の実情は様々なため、その地域に合わせて進めていくことが肝要であると考えており、3人の社会教育指導員がそれぞれの地域で、その方法を模索しながら進めている。

先ほど生涯学習相談会・体験会について触れたが、日常的に様々な相談を受けている。相談者の話をよく聞くことで、様々な地域の課題など学習ニーズを拾うことができる。少しずつではあるが、文化センターで行う講座や体験会を周知していくことで、参加者数や、利用者ではなくてもふらっと中へ入ってきていただく方が少しずつ増えている印象がある。

文化センターの利用者からは、私たち地域学習コーディネートについて、サークル活動を応援してくれる人たちだというふうに認識がちょっとずつ出てきているところ。そのように認識いただけることで、サークル活動の解散を選択する前に相談してみようかなという選択肢が生まれて、サークル活動の持続可能性を見出せるのではないかと考えている。

繰り返しになるが、地域によって進め方や進み具合が様々で、定型的な方法はないように思う。また、このように可視化されていることのほかに、水面下で様々な試行錯誤ややり取りがあることも最後に申し添える。

令和6年度の取組状況の報告は以上となる。

【会 長】

これまでの取組状況についての報告であったが、質問やご意見などいかがか。

【委員】

様々な興味深い催しについて、感謝申し上げます。特に生涯学習相談会につい

ては、私自身も非常に参加したい内容だったが、告知はどのようにしているのか。区報か、それともチラシ等か教えていただきたい。

【社会教育指導員】

生涯学習相談会の周知は、地域の区設掲示板や、各施設でのチラシ配布、生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」、おおた区報で行っている。

【委員】

区報にも出ているならば、見落としていたかと思う。

【会 長】

情報の伝達は難しく、出しているつもりでもなかなか広がりず、重要な問題だと思う。さらにいかがか。

【委員】

質問だが、コーディネーター、インストラクターの話が出てきたが、資料1の11ページに記載のある生涯学習ボランティア制度のボランティアとは別の方か。この中の一部の方か。

【事務局】

生涯学習ボランティアの制度の中に含まれる方々だと思っていただきたい。資格や技術を持っている方をインストラクターとして登録しており、区の人材育成講座を修了された方には、生涯学習事業のサポーターとして関わっていただいている。また、そこを卒業して地域で活動している方も含めて、生涯学習ボランティアと呼んでいる。

【委員】

資料1の11ページに紹介件数が2件とあり、今紹介があった内容もこの件数に含まれているのか疑問だったため、質問した。

【事務局】

補足させていただく。

資料1のボランティア紹介件数2件というのが、少なくなっているのは、ウェブサイト（生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」）で人材情報を公開しており、直接連絡が取れるようになったことが要因と考えられる。これまでは、事務局に直接照会があったが、減っている。

【会 長】

他にいかがか。

【委員】

様々な活動をされて、その活動が次の活動につながっているということで、素晴らしいと思った。

相談会は、どれくらいの年代の方が集まる傾向があるのか。

【社会教育指導員】

相談会にいらっしゃった方に年齢を聞いているわけではないが、お話から推察すると 60 代の方が中心になっているように思う。

また、相談会自体が、基本的には平日の午前中または午後で開催していることも影響しているのではないかとと思われる。

【会 長】

これも重要な論点ではないかと思う。先ほど社会教育指導員の方からの報告で、時間帯を変えてというようなお話があった。私も他の自治体で、地域活動に関わり得る時間帯について、アンケートを通して調査したが、年代ごとに違い、年代ごとの集計グラフを描くと X 字型になる。時間が合わないから諦めるのではなくて、工夫をして相互に理解をして一緒にやっていくということになるが、開催時間帯が非常に重要な論点だと思う。

他にいかがか。

【委員】

先ほど、インストラクターの話があったが、この方々に報酬の支払いはあるのか。

文化振興協会では、芸術家の方々から相談を受けることがある。地域活動をしたいが、ほとんど報酬が出ない。

今、他自治体がロビーコンサートの出演者を募集しているが、報酬は出ない。対象は、音楽大学等卒業したプロの方である。地域活動をする方への報酬が予算化されていないことで、結果的に機会が生まれないことも課題としてあるのではないかと考えている。生涯学習の分野でもそのような課題があるか伺いたい。

【事務局】

ボランティアの登録の時点で、基本的には活動は無償ということで登録いた

だいている。ボランティアを活用したい地域の団体との折衝の中で、実費や謝礼は双方の打合せで決めていただくようお願いしている。

課題の部分だが、今のところ社会教育関係団体に関しては、日頃の活動を発表できる場を提供できればと思っている。活動場所の整備や、サークルの会員を集める、そういうような支援ができたらなと思っている。一般区民に芸術鑑賞してもらうなど、区主催で行う場合は、報酬をお支払いして依頼する場合もある。

【会 長】

今の論点は非常に重要で、別の自治体で実施した市民アンケート調査では、2006 年の同様の調査と比べると、地域活動は無償であるべきという人が激減しており、有償であるべきという人が激増している。年代別に集計すると若い人の間で有償の意識が高い。これは有償か無償か二者択一ではなく、色々な論点が含まれていて、論点ごとに丁寧な議論が必要で、区民レベルで様々な場で議論していくことが必要ではないかと個人的には考えている。非常に重要な論点を提起いただいた。

他にいかがか。

(意見なし)

【会 長】

昨年度、社会教育指導員の3名にインタビューさせていただき、非常に勉強になった。文化センターを3人で巡回するとどのくらい効果があるのかと思っていたが、色々お話を伺って、非常に大きな成果を上げておられると驚いた。お話の中で、包括支援センターの生活支援コーディネーターや、地域福祉コーディネーターが出てきた。すごく忙しい人たちであるため、地域づくりに手が回らないという現象が見られていたが、その人たちを地域づくり、地域との交流に引っ張り込んでいるということで、非常に素晴らしいと思う。

大田区でも地域福祉の委員会に今年度から入ったが、福祉の分野と生涯学習の分野が連携して相互に高め合うと非常にいいなと感じている。

ということで、社会教育指導員の方が（文化センターを）巡回をされて、生涯学習の支援をしているという報告だったが、メインになるだけの内容だったと感じている。

それでは、次の議事について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料 8 に基づき説明（2 ページから 3 ページまで）

【会 長】

今日は今期の第 1 回目ということで、これまでの議論を簡単にご説明いただいた。前の期の報告書は資料 9 である。報告書が事前送付だったため、すでにご覧いただいているかと思うが、今日全部理解しなければいけないというわけでもないため、ご質問やご意見があれば御発言いただきたい。いかがか。

（意見・質問なし）

前の期に参加された方で補足した方はいらっしゃるか。

副会長いかがか。

【副会長】

ポイントを掴んで報告いただいた。資料 8 の 3 に概要が示されているが、推進会議で論じたところが整理されていたかと思う。報告にもあったが、文化センターや図書館が各地区コミュニティの拠点、学びの拠点となり得るのではないか、それらの機能を向上させていくためにはどうあるべきかということについて議論していった。その中でそこが情報収集や発信の場であり、あるいは講座があることで学びのきっかけづくりやつながりづくりの場になり、そのためには相談・コーディネート機能が重要で、相談・コーディネート機能を充実させるためには、それをつなぐ人と場が必要で、そのような流れからナビゲーターの話や活動の場の話が出てきたというところ。

先ほどの社会教育指導員の方のお話はかなり具体的なそのイメージで、重ねて考えていただくと分かりやすいかと思った。

【会 長】

それでは、次の議事（3）に移る。事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

資料 8 に基づき説明（4 ページから 7 ページまで）

【会 長】

これが本日の一番のメインとなる議題のため、皆さんに 1 回はご発言いただきたい。

（「おおた生涯学習推進プラン」は）計画のため、上位計画の話が出てくるが、大田区の基本構想・基本計画と整合性をとって次期プランもつくられるということである。

それでは、ご質問、ご意見どんなことでも結構なので、ご発言いただきたい。

【委員】

サークルの発表の場づくりや、文化センター利用者のつどいを7年続けてきた。文化施設や障がい者関係、児童館、デイサービスにも関係があり、そのようなところで活動してきた。自分の中では大田区内の色々なジャンルが繋がっている。今（区からの説明を）聞いていると、例えば文化センターと図書館を連携するというと、どのようにするのかと思う。今現在、文化センターと図書館は自分の中では連携されていない。図書館や自治会の集会室を借りるには、まず壁がある。その中に入り込むには、図書館なら図書館の企画の中に入り込んでいくしかない。一番難しいのは学校との連携。先ほど謝礼の問題が出たが、音楽の先生に今までは謝礼を出し、ブラスバンドの演奏をしてもらっていた。自分の段階になってからそういうことはやめようとなり、今までの結びつきが切れるのが現状。文化センターには、色々な団体が入ってきているが、利連協を作るには至らない。そこを区で結ぶようにしてほしい。

【会 長】

学びと活動の循環では重要な実践をされてきた。事務局からコメントはあるか。

【事務局】

多角的な視点をいただいた。

図書館もそれぞれ館ごとに地域性を持った事業があり、近くに文化センターがあるところでは、連携をしていこうと動いている。美原文化センターと大森東図書館は近くにあり、図書館でサークルの案内をしている。図書館で行っている読み聞かせボランティアに参加し、興味を持った方からサークルを紹介してほしいと要望がある。また、各小学校へもボランティアやサークルの紹介をして繋がりを設けていきたいと思っている。立地と地域特性に併せて展開できればよい。

連携の部分についてだが、学校を中心としたコミュニティ・スクールの開設

を区内全域に展開している。これによってこれまで学習や活動に関わってこなかった地域の大人たちが学校をみんなで支えようという動きが出てきている。学校を中心とした活動、地域活動と学校の連携がこれから生まれるのではないかと考えている。歴史的に地域と学校が連携しているところもあれば、これから開拓していくところもある。そこに社会教育関係団体などが学習成果を発表する場に繋がっていけばいいと思う。

【委員】

自分が話したのは石川町文化センターの話。他の地域に行けば、協力体制などに違いがある。

【会 長】

他自治体で青少年健全育成委員の調査をしており、いくつか都内の青少年関係の特徴を知るに至った。学校との連携をやらざるを得ないようにできており、非常に優れた制度設計だと思った。地元である横浜ではなかなか学校と連携がとれない。その点、東京都は素晴らしいと考えている。

【委員】

青少対は、青少年の健全育成を担っているので、生涯学習という大きいくりだと少し外れるかもしれないが、現在は自分が子どもの頃にはなかったものが多くあり、親としてアップデートしていかないといけない。家庭教育という分野には非常に興味がある。青少対は文化センターと絡んでいないわけではなく、無償だが、子供たちの発表の場をつくっている。運営をするわけではなく、あくまでも繋ぐだけ。プランを見ると子どもに関する記載があまりない。子どもを育てる親に対する社会教育はとても大事。おそらく別の委員会で扱っているのかと思うが。

【会 長】

事務局では学びと活動の循環を案として出していて、最近は文科省でも出しているように思う。最近は担い手がいない、高齢化している、固定化していると言われているが、アンケートをとると機会があれば活動してみたいという人が信じられないほど多くいる。その人たちは実際には加わってこない、なぜなのかという話題によくなる。それをきっかけに地域の価値ある活動に参加するという循環や転換が生まれると素晴らしいと思う。こうしたらよい、このよう

な手があるのではないかということをご議論いただけるとよいかと思う。

【委員】

自治会では年間通して色々な行事をやっている。高齢化によりなり手不足に非常に苦労しているところであるが、連携は常に考えており、いろんな人に参加してもらおうと思っている。生涯学習推進プランはどちらかというと自分の意思で学習したい人が主なのかと思うが、自治会もひとつのきっかけになればよい。少子高齢化といわれる中で、大田区は人口が増えているが、人間関係は希薄である。あいさつが飛び交う地域にしたい。色々な立場、役割があるので、生涯学習推進プランをPRしながら、これからも活動をしていきたい。

【会 長】

地域では色々のご苦労もあると思う。

他にいかがか。

【委員】

区民の立場で考えた。相談会などに参加する方というのは、色々な情報に接して、繋がりがあるからこそやろうかなというきっかけになるのかと思う。私としては、生涯学習のきっかけがない、気力がわかないという人にもやってみたら楽しいことがあるといことを知らせてあげてほしい。いろんな形でイベントを周知していると思うが、地域包括の職員が高齢者宅を訪問したときにチラシを配るなど、くまなく機会があることを知らせてほしい。歩行がままならない人も対象にしてほしい。そのような方に対しては、オンラインで家でもできることを。画面を通してでもみんなとやっている、社会に参加してもらう機会を作れたらいいと思う。私はより「誰もが」参加できる、少なくとも誰もがきっかけを得られるようにしてほしい。

【会 長】

移動困難な方も送迎ボランティアなど色々なやり方があり、制度事業もあるので、講座に参加できるようにしなくてはならない。制度上はできるが、委員のお話にもあるように、情報が届くのかというところに戻ってくると感じた。

【委員】

昨年一年間会議に出られない間、進んだことが多くあったと思う。本日の話を聞いて非常にわくわくする思いである。子どもたちの生涯学習は、大きな

人生をかけたような循環と捉えたら、小さいうちはいきなり活動にはならないだろうが、素敵な経験を重ねることで、大人になって活動につながる方もいるというサイズの違う循環に気付かされた。「誰もが」という話だが、全員、または、やりたい方たちだけという両方の視点が生涯学習にはいつも出てくるが、エネルギーの配分について、これから時間をかけて議論していけばいいかと思う。全員へという点では、プッシュ通知など、是非という点は何なのか。やりたい人にはどこまでできる準備があるのか。論点として見えてくるとよい。

【会 長】

循環のペースはなるほどと思った。最近の講座では、講座が終わった後にあなたは地域で何をするのかと書かせる速い循環もある。そのような循環もあってよいと思うが。

子どものうちから地域で少し関わる機会などを持っておくと、定年退職をしたあとに地域活動をするなどゆったりしたサイクルの違いなどがありそうだなと感じた。

さらにいかがか。

【副会長】

生涯学習は大人の学びを意識しがちだが、子どもを含めた学びだと思っている。地域と学校の連携や、世代を超えた体験や交流の場の期待について伺いたい。PTA の委員も来てくれているが、地域の中で体験や交流の機会があると思うが、期待感や課題などに思っていることなどを伺いたい。

【委員】

本日の会議に参加してみて、大田区も生涯学習をたくさんやっているのだなという印象を持った。HP もみたが、多くの講座があった。小学校であるが、子供の生涯学習を考えると、中学へ行くためのステップの学習と様々な体験活動がある。その体験により世界が広がったり、将来のことを考える意欲が生まれたりする。地域との交流だが、夏のわくわくスクールで青少対や地域の方に来ていただき、無償で講師として関わっていただいている。通常の学習活動については、大森地域なので、海苔のことをよく学習する。お寺の方に来てもらって教えてもらうなど、様々な繋がりがある。学びと活動の循環の話があったが、そのような知識を学校の方にもたくさん入れてもらえるとありがたい。学校と

の連携は難しいところもあると思うが、そのようなことはなく、声をかけてもらえれば。地域の人材を紹介してもらえれば学校としても助かる。ご協力のほどお願い申し上げます。

【委員】

地域との繋がりの中で中学校の事例をいくつか紹介する。ガーデンパーティは中学生が色々な形で参加している。各自治会からもお神輿の担ぎ手など色々なお声かけいただいている。子どもたちに声をかけると定員以上集まることもある。地域に関わりを持ちたいというのが子どもたちの中にもあるのではないか。学校の教育にも地域の方に協力いただいている。例えば、防災教室では消防団の方に来てもらって、消火器の使い方など教えてもらっている。職場体験で各地域のお店にお世話になり、職場で体験、あるいは、お話をしてもらうことも。地域なくして学校教育は成り立たないくらいに思っている。将来にわたっての教育では、高校受験に向けてだけではなく、大人になっての生き方、最近では、自主的に行動する能力をつけることがひとつの大きな狙いとなっている。例えば、生徒会の選挙で本物の投票箱を借り、本当の選挙のように行っている。また、校則の見直しもほとんどの学校で行われ、校則を自分たちでつくるところもある。そのような経験が社会に出たときに、よりよい社会をつくっていかうという原動力につながるのかなと思い取組んでいる。

【委員】

保護者の立場から申し上げます。部活動がはじまると 18 時くらいまで帰ってこないため、働く時間を増やす保護者が多い。逆に自分の趣味を楽しむ人もいます。時間の使い方は人さまざまだと日々感じている。3 年間のうちは必ず 1 回は PTA 活動が回ってくる。学年も違う人たちと活動していく中で、色々吸収、交流できることがある。体育祭で 14 基のテントを PTA で立てる。30 分もかからず立てられるところは、コミュニケーションってすごいなと思う。そのような中で会話していくと色々な職の方がいる。教えてほしい、やってほしいという職の人がたくさんいる。そういう人たちをどのように活かしていけばよいのかと思う。謝礼の問題もあると思うが、やってもいいよという人たちを繋げていけるところがもっとあればよい。

【会長】

来年度の策定に向けて、重要な基盤を築けたように思う。
副会長いかがか。

【副会長】

いくつか柱になりそうなものも出てきたと思う。きっかけをどのように届けるか、つくるか、どのように間口を広げるか、越境するか。機会があればやってみたい、機会を知らない、色んな人材を掘り起こしたり、繋げたり、待つのではなく、どのようにアプローチするかが大事なポイントだと思った。学習は間口が広い。やったことが地域につながったり、誰かのためになったりという循環を意図的にどうつくっていくか。お金も大事だが、お金以外の報酬、やってよかった、次の自分につながったなど得るものの見せ方もポイントだと思う。

【会 長】

他自治体の研究の一環でアンケート調査をしており、「今後あなたは地域でどのような活動をしていきたいですか」という設問があるが、2006 年アンケートと比べてどの項目も減っている。どの活動もしたくない人が倍くらい増えている。次の設問に「どんな条件があったら活動に入りやすいと思いますか」という設問があり、どの活動もしたくないと答えた人も答えている。やりたくない人でもいろんな入り口があって、問題なのはどういう切り口で入ってもらうか。コーディネーター的な役割の人が必要なのだと思う。そのような議論を今後の会議で深められれば。

それでは、最後の議題に移りたい。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料 8 に基づき説明（8 ページから 14 ページまで）

【会 長】

会議と並行してアンケート調査をすることはよくあるが、調査票の設計段階から会議に情報提供することはない場合もあり、丁寧にご説明いただきありがとうございます。アンケート調査については、この場でご意見を伺う時間がないために、ご意見やご質問がある場合は、配付されている意見書で事務局宛てにお寄せいただきたい。

先ほど説明にあったように、皆様からのご意見を取り入れて、9 月に調査票を確定させる。今後の調整については、会長と事務局に一任いただければと思

うがいかがか。

(異議なし)

【会 長】

では、そのようにさせていただき、ご意見やご質問があれば、ぜひ事務局にお寄せいただきたい。

それでは、議事が全て終了したため、進行を事務局にお返しする。議事進行にご協力いただき感謝申し上げます。

6 閉会

【事務局】

会長、委員の皆様、限られた時間の中で多くのご意見をいただき誠に感謝申し上げます。

事務局から最後に事務連絡をさせていただく。次回の日程だが、12月の開催を予定している。詳細については、改めて通知させていただく。

追加のご意見についてだが、区民・団体アンケート調査についてご意見があれば、意見書を事務局まで提出いただきたい。

また、アンケートの項目が確定したら、皆様にお送りさせていただく。併せて、令和6年度を取組状況報告の中で、社会教育指導員が説明をしたスライドの資料についても、後日お送りさせていただく。

それでは、以上をもって閉会とする。

7 委員からの追加意見（区民・団体の学びに関するアンケート調査について）

- ・資料2 問4 選択肢1中、「文化」から「文化芸術」へ変更
- ・資料3 問2 活動場所に「区民プラザ」、「アプリコ」、「文化の森」を追加。多くの社会教育関係団体の活動場所になっているため。
- ・今後の課題として、「誰もが」という観点から、アンケートに回答していない区民の意向も汲み取るため、プッシュ型アンケートの採用など工夫していくことが必要だと思う。